

2013年度 教育課程論Ⅱ Ⅱ. 学力評価とカリキュラム設計 (教育課程)

2013年11月6日収録
京都大学 西岡加名恵

課題D(あ) ポートフォリオの設計 ——生徒への説明

- 教師になったあなたは、自分の生徒たちに、ポートフォリオ作りをさせたいと考えました(と想定してください)。ポートフォリオ作りを始める際には、「なぜ、作るのか?」「どのように作るのか?」「どう活用するのか?」などについて生徒たち自身が見通しを持てるように、説明することが重要です。そこで、自分が指導する際に活用してみたいポートフォリオを1つ設計し、そのポートフォリオについて生徒たちに説明するためのプリント資料を作ってください。

(1) ポートフォリオ評価法とは・・・

- ポートフォリオ： 学習者(児童・生徒や学生)の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法： ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

3

(2) 取り組む上でのポイント

- ① 生徒と教師で見通しを共有する。
 - なぜ、作るのか? 意義は何か?
 - 何を残すのか?
 - いつ、どの期間で作るのか?
 - どう活用するのか?
- ② 蓄積された作品を、編集する(整理・取捨選択する)。
 - ワーキング・ポートフォリオからパーマネント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
 - 検討会で见せる作品を選ぶ。
 - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
 - 見通しを持つ。
 - 到達点と課題、次の目標を確認する。
 - 成果を披露する。

4

課題D(あ) ポートフォリオの設計

一枚ポートフォリオの裏面
Dのセクション →

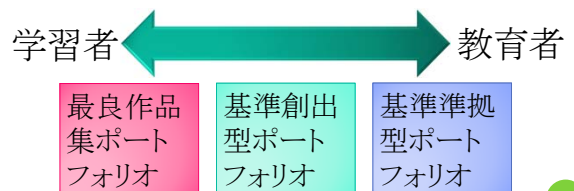
◎「日々の記録」⑨
「ポートフォリオの設計——生徒への説明」に取り組んだ際に想定していた学校の特徴について述べなさい。

学校段階： 学年：

- どんなポートフォリオなのか?
- どんな意義があるのか?
- どんな手順で作っていくことになるのか? (何を残すのか? どれぐらいの期間で?)
- いつ編集するのか?
- いつ検討会をするのか?
- どのように活用するのか?

(3) ポートフォリオの所有権

- 所有権(Ownership)： 残す作品や評価する基準の決定権



6

(4) 教科における目標準拠評価の充実
◎中学校理科の実践例



(田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年)

7

◎中学校理科の実践例



(田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年)

8

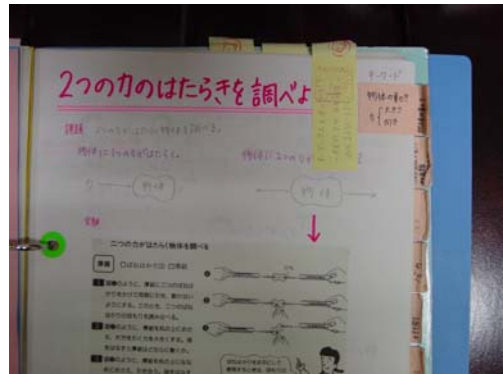
◎中学校理科の実践例



(田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年)

9

◎中学校理科の実践例



(田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年)

10

◎“三次元モデル”との対応

観点	評価方法	単元1	単元2	...	単元X	単元Y	総合的評価
関心・意欲・態度	パ課題					◎	到達レベル(質)
思考・判断・表現	パ課題		○			◎	到達レベル(質)
技能	実技テスト						到達レベル(量)
知識・理解	筆記テスト						到達レベル(量)

基準準拠型ポートフォリオに収める作品

ルーブリック

チェックリスト

◎長期的ルーブリックの例 →資料2④

観点	評価方法	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
社会的な事象への関心・意欲・態度	パフォーマンス課題	[例]				
社会的な事象に関する関心・意欲・態度	パフォーマンス課題	社会的な事象について、経済・経済・文化・人口・環境などの観点から関心・意欲・態度を示すことができる。	社会的な事象について、経済・経済・文化・人口・環境などの観点から関心・意欲・態度を示すことができる。	社会的な事象について、経済・経済・文化・人口・環境などの観点から関心・意欲・態度を示すことができる。	社会的な事象について、経済・経済・文化・人口・環境などの観点から関心・意欲・態度を示すことができる。	社会的な事象について、経済・経済・文化・人口・環境などの観点から関心・意欲・態度を示すことができる。
資料情報の活用	実技テスト	3年間で身につけるべき技能を100%達成している。	3年間で身につけるべき技能を80%達成している。	3年間で身につけるべき技能を60%達成している。	3年間で身につけるべき技能を40%達成している。	3年間で身につけるべき技能を20%達成している。
社会的な事象についての知識・理解	筆記テスト	3年間で身につけるべき知識・概念を100%達成している。	3年間で身につけるべき知識・概念を80%達成している。	3年間で身につけるべき知識・概念を60%達成している。	3年間で身につけるべき知識・概念を40%達成している。	3年間で身につけるべき知識・概念を20%達成している。

学習到達目標

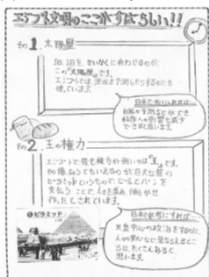
学習到達目標

学習到達目標

(西岡加名恵「学力評価計画に対応するポートフォリオの活用」『指導と評価』2010年10月号、p.10)

11

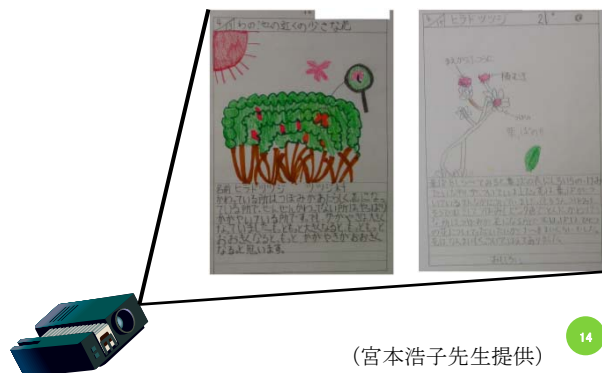
◎同一生徒の 作品の変化



(三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか——中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』日本標準、2010年、pp.47-48)

[illegible]

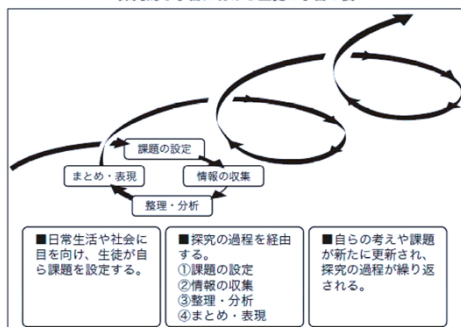
◎作品批評会をする



(宮本浩子先生提供)

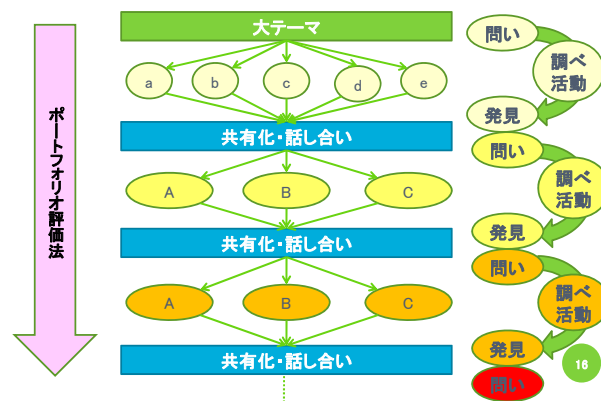
(5)「総合的な学習の時間」で
探究する力を育てる

探究的な学習における生徒の学習の姿



(文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
2008年、p.16)

◎単元の構造



◎ポートフォリオ(小学校)



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年も参照)

◎ポートフォリオ(小学校6年間の足跡)



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の
確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

◎ポートフォリオ検討会



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

19

●検討会での対話の例

先生：千尋さんは、いろいろなデータを集める力がすばらしいね。徳島が誇れるものということで調べ活動をして……いいもの、あった？

千尋：それが、ぜんぜんだめなの。

先生：ぜんぜんだめって？

千尋：徳島が一番のものは何もない。

先生：鳴門金時やれんこは？

千尋：特産物ではあるかもしれないけれど、生産量が一番とか、いちばんたくさん売れているといったデータは、インターネットや農産物の年鑑で見てても何もない。……ああ、私の総合学習どうしようもないのかなあ。このテーマ、困ったなあ。

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年、p.20)

20

●検討会での対話の例(つづき)

先生：ううん。特産物を使った公園というのは？ 助任川水際公園は阿波の特産物、青石や木材をベースに作られた公園よ。その公園は自慢にならない？

千尋：全国的に見て、もっともっと大きな公園はあるよ。それにもっともっと工夫をこらした公園だってある。それに比べてちっぽけな助任川水際公園なんて、誇れるものじゃないよ。

先生：ちょっと待って。でも、そのちっぽけな助任川水際公園を大事に大事に思っ、地区の人やボランティア団体の人たちが守る活動をしているよ。掃除をしたり、季節ごとの花の苗を植えたり…。その人たちにとって水際公園は誇りなんじゃないかな。

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年、p.20)

21

●検討会での対話の例(つづき)

千尋：確かに。どんな小さな公園だって、自慢に思っている。

先生：そうそう。今まで千尋さんは、何か一番のもの、いちばん大きな物、いちばん多く生産した物というように探していたけれど、それだけじゃない。一番でなくても誇りは持てるんじゃない？

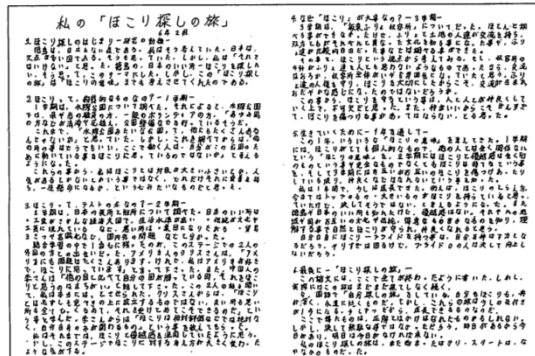
千尋：でも、どう調べればいい？ そのことに誇りをもっているって。

先生：その仕事に携わっている人にインタビューしてみても。……きっと鳴門金時を栽培している人も、生産量や販売量に関係なく、自分の作った物は一番って思っているはずよ。その“一番”の中身を探っていくてみたら。

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年、p.20)

22

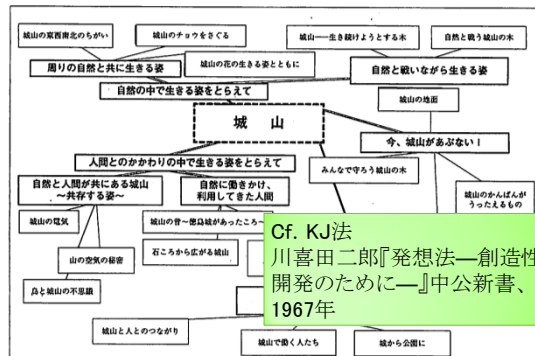
●千尋さんの卒業論文



(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年、p.41)

23

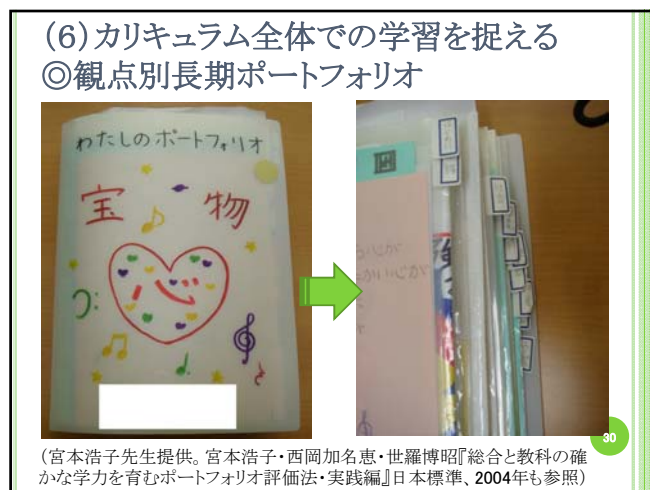
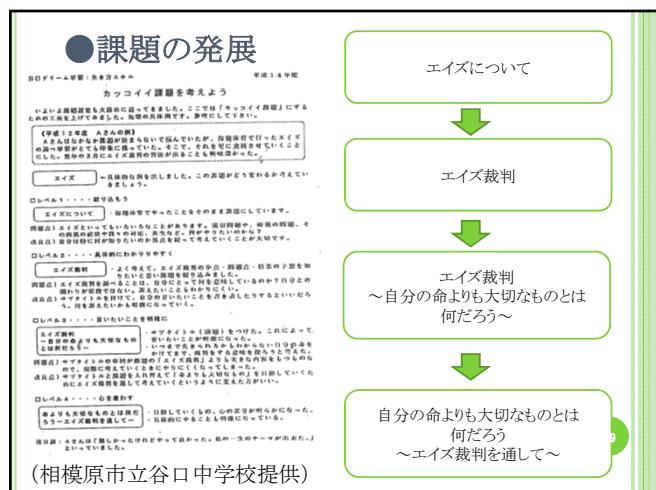
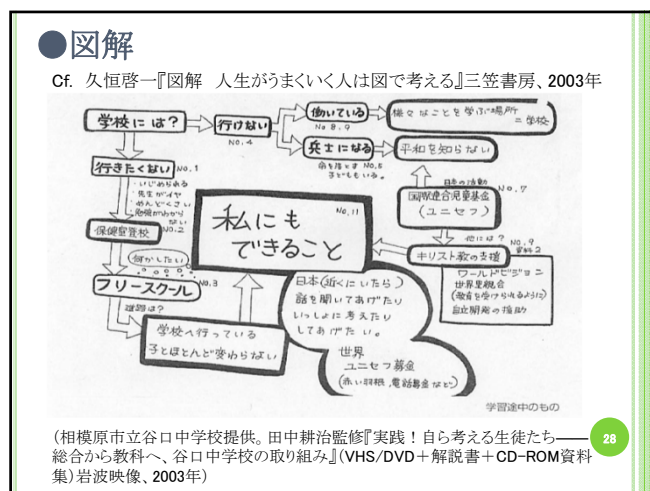
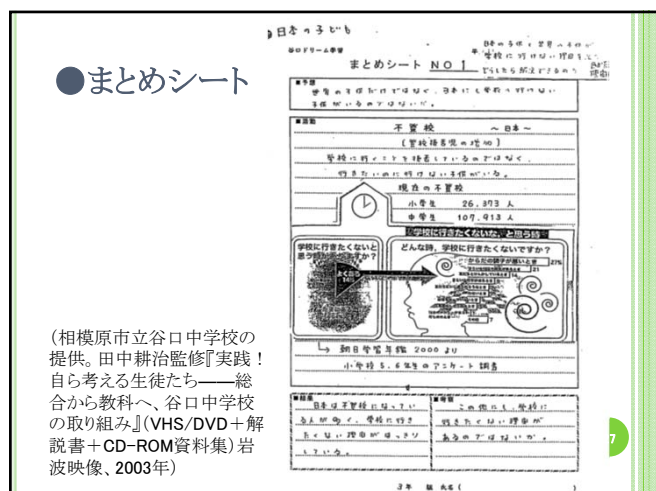
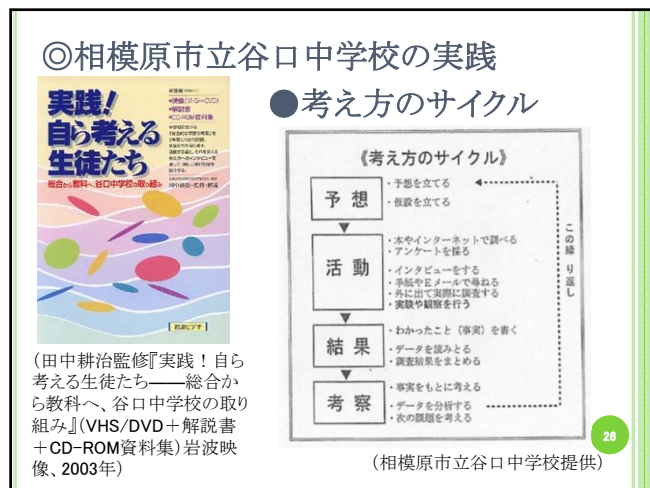
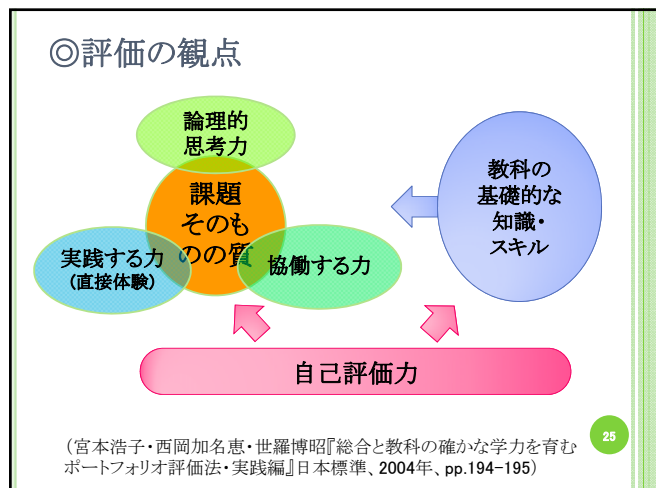
◎学級での話し合いを組織する



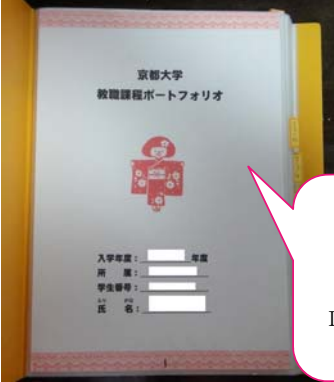
Cf. KJ法
川喜田二郎『発想法—創造性開発のために—』中公新書、1967年

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年、p.60)

24



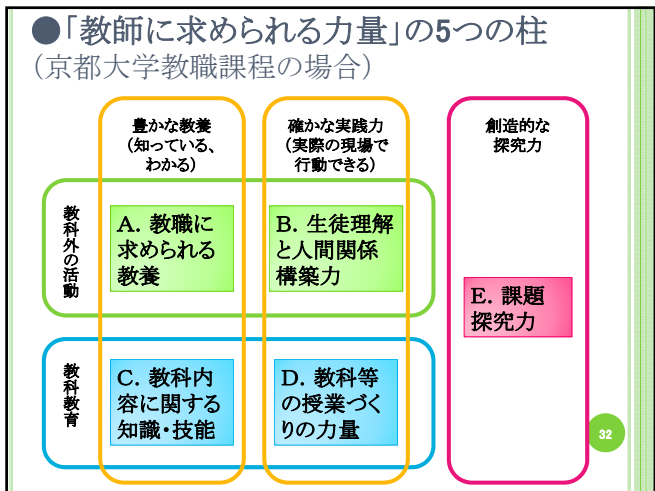
◎京都大学の教職課程ポートフォリオ



(西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年)

<必須の成果資料>

- A. 学級経営案
- B. 学校での活動の記録
- C. 教材研究の記録
- D. 学習指導案と振り返りメモ
- E. 自由課題



●履修カルテ(自己評価用ルーブリック)

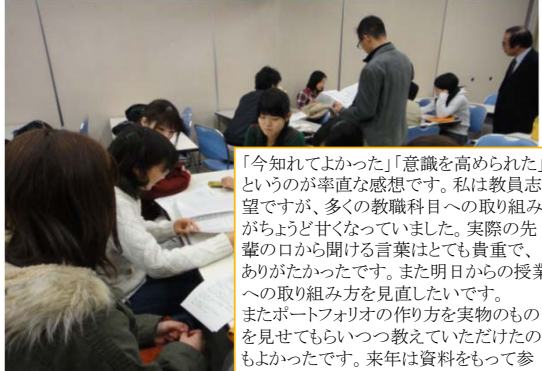
京都大学教職課程 履修カルテ(自己評価用ルーブリック)

項目	1. 求められる力量	2. 豊かな教養 (知っている、わかる)	3. 確かな実践力 (実際の現場で行動できる)	4. 創造的な探究力
1. 豊かな教養 (知っている、わかる)	2. 確かな実践力 (実際の現場で行動できる)	3. 創造的な探究力	4. 豊かな教養 (知っている、わかる)	5. 確かな実践力 (実際の現場で行動できる)

「ポートフォリオを作る過程でルーブリックに照らして自己評価することによって、自分の身につけている力を見直すことができます。ポートフォリオを使って自分の経験の意義を振り返ることで、その後の成長の糧とすることができます。」

(京都大学教職課程。西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年)

●教職課程ポートフォリオ検討会 (京都大学教職課程)



「今知れてよかった」「意識を高められた」というのが率直な感想です。私は教員志望ですが、多くの教職科目への取り組みがちょうど甘くなっていました。実際の先輩の口から聞ける言葉はとても貴重で、ありがたかったです。また明日からの授業への取り組み方を見直したいです。またポートフォリオの作り方を実物のものを見せてもらいつつ教えていただけたのもよかったです。来年は資料をもって参加します！」

◎「資質・能力」の評価

【初等・中等教育】

- 文部科学省：「生きる力」(1996)
- 内閣府：人間力(2003)
- OECD - DeSeCo：「キー・コンピテンシー」(2003)
- OECD - PISA：「読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー」(2004)
- 新学習指導要領：知識・技能を活用する「思考力・判断力・表現力等」(2008)

【高等教育・職業教育】

- 厚生労働省：就職基礎能力(2004)
- 経済産業省：社会人基礎力(2006)
- 文部科学省：学士力(2008)

【労働政策】

- 日本経営者団体連盟(日経連)：エンプロイアビリティ(雇用される能力)(1999)

「学力」と「実力」の狭間
(石井英真「おわりに」西岡加名恵他『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年)

21世紀型スキル
(アメリカ、オーストラリアなど)

(松下佳代「＜新しい能力＞概念と教育——その背景と系譜」同編著『＜新しい能力＞は教育を変えるか——学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010年)

Cf. 21世紀型スキルの評価と指導(ATC21S)

(ASSESSMENT & TEACHING OF 21ST CENTURY SKILLS, CISCO/INTEL/MICROSOFT)

考え方	働き方
<ul style="list-style-type: none"> 創造性と刷新 批判的思考、問題解決、意思決定 学び方を学ぶこと、メタ認知(認知プロセスに関する知識) 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション 協同(チームワーク)
働くためのツール[道具]	世界で生きること
<ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシー ICT(情報伝達技術)リテラシー 	<ul style="list-style-type: none"> 市民性—ローカルとグローバル 人生とキャリア 個人的・社会的責任—文化的配慮とコンピテンスを含む

(<http://atc21s.org/index.php/about/what-are-21st-century-skills/>)

CF.「ポスト近代型能力」批判

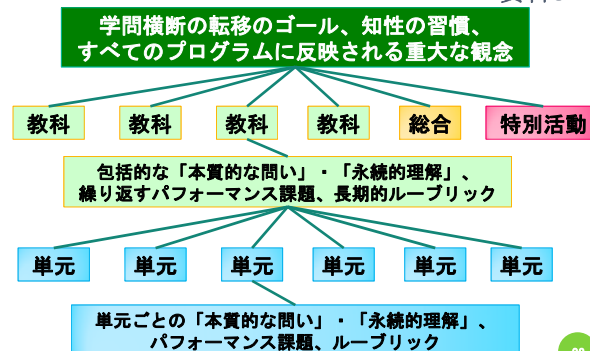
- 人間の深く柔らかな部分まで含む全体的な能力を絶えず評価し、労働力として動員・活用しようとする
- そうした能力は学校では形成されにくく、家庭での教育的環境に大きく依存するために、階層の再生産に手を貸してしまう

(本田由紀『多元化する「能力」と日本社会——ハイパー・メリトクラシー化の中で』NTT出版、2005年、p.12)

37

※カリキュラム横断で評価する可能性？

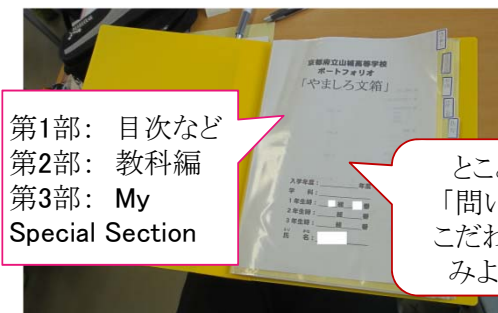
→資料8



(Wiggins, G. & McTighe, J., *Schooling by Design*, ASCD, 2007参照)

38

◎「やましろ文箱」(京都府立山城高等学校提供)



第1部: 目次など
第2部: 教科編
第3部: My Special Section

とことん
「問い」に
こだわって
みよう!

→京都大学 高校生のためのOCW
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/63>

39

●「やましろ文箱」交流会



(2013年7月12日、京都府立山城高等学校提供)

40

(7) 多様な展開の可能性

期間

- 一つの課題
- 一つの単元
- 1学期間
- 1年間
- 数年間
- ⋮
- ⋮

学習の範囲

- 一つの教科
- 一つのテーマ
- 一つのスキル
- 特定の領域
- 学校のカリキュラム全体
- 学び全体

41

■参考文献



42